

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **62** 平成29年
(2017) 3月

CONTENTS

- ①～② 第6回自治体災害対策全国会議を開催
- ③ 「こころのケア」シンポジウムを開催
- ④～⑤ 東日本大震災復興の総合的検証—一次なる大災害に備える—
HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

平成28(2016)年11月15日(火)、16日(水)に、兵庫県公館で、第6回自治体災害対策全国会議を開催しました。その都度異なる形で襲ってくる大災害に対応するため、全国の自治体職員等が知見を共有し、備えを高めようと平成23年度から毎年開催しています。今回は「大規模災害対策と自治体連携」をテーマに、熊本地震、広島豪雨災害、関東・東北豪雨などの事例を取り上げながら議論を行いました。会議には自治体職員など全国から約360人が参加しました。

初日は、井戸敏三兵庫県知事の主催者あいさつ、杉山美邦読売新聞社大阪本社代表取締役社長の共催者代表あいさつに続き、片田敏孝群馬大学大学院教授から特別講演「大規模災害にどう備えるか～最近の災害事例に学ぶ～」がありました。災害時に適切に避難を行うためには、何よりも住民自らの主体性を高め「国民強靱化」を図らなければならないとし、東日本大震災の大津波から生き延びた釜石の子どもたちへの防災教育の取り組みが紹介されました。

第6回自治体災害対策 全国会議を開催

次に、蒲島郁夫熊本県知事から、基調報告「熊本地震への対応と教訓～次世代への継承～」があり、今回の地震では自衛隊等による迅速な救助活動が実施できた一方、ボランティアや他の自治体からの受援についての課題が指摘されました。

さらに、松井一實広島市長からは、基調報告「平成26年広島豪雨災害を踏まえた防災・減災対策」として、豪雨災害を教訓に市の危機管理体制を見直し、危険度に応じた段階的な避難情報の発信や市民の防災力の向上に取り組んでいることが紹介されました。

2日目は、これらの問題提起を踏まえ、2つのパネルディスカッションがありました。「大規模水害時の避難と情報」(座長:宇田川真之人と防災未来センター研究主幹)では、災害時要援護者の支援マニュアルの整備など自助・共助・公助それぞれの役割に応じた事前対策や、周辺自治体を含めた広域避難体制の構築が必要との指摘がなされました。「自治体間の広域防災体制の構築」(座長:永松伸吾関西大学教授)では、応援側には指揮系統をもったチームによる効果的な応援が、受援側には受援計画など応援職員を活用するための準備が求められることが明らかになりました。

最後に、両座長と当機構の五百旗頭真理事長、室崎益輝副理事長による総括討議が行われました。五百旗頭理事長からは、災害活性期にある現在、ハード整備だけに依存しない市民一人一人の備えを高める取り組みや、東京が抱える災害リスクを踏まえ、国土の再配置も視野に入れた検討の必要性等が指摘されたほか、今回の会議をきっかけに自治体間の災害支援が一層進むことへの期待が示されました。





想定外の災害が頻発する中で、適切な防災行動を促すための方策や、自治体間の効果的な応援・受援のあり方などについて、防災・減災対策の最前線にある各自治体が情報共有を図ることができる実りの多い会議となりました。

来年度の会議は、今年11月に、新潟県内で開催する予定です。

※会議の報告書は機構ホームページに掲載しています。

<http://www.hemri21.jp/dcp/index.html>

《開催概要》

会 場：兵庫県公館 大会議室

主 催：自治体災害対策全国会議実行委員会

共 催：(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、読売新聞社

後 援：全国知事会、全国市長会、全国町村会、指定都市市長会、内閣府政策統括官(防災担当)、消防庁、兵庫県、関西広域連合、神戸新聞社

《プログラム》

[第1日]

コーディネーター：室崎 益輝(ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究調査本部長)

主催者あいさつ：井戸 敏三(自治体災害対策全国会議実行委員会委員長、兵庫県知事、関西広域連合長)

共催者代表あいさつ：杉山 美邦(読売新聞社大阪本社代表取締役社長)

特別講演：「大規模災害にどう備えるか～最近の災害事例に学ぶ～」

片田 敏孝(群馬大学大学院理工学府教授)

基調報告1：「熊本地震への対応と教訓～次世代への継承～」

蒲島 郁夫(熊本県知事)

基調報告2：「平成26年広島豪雨災害を踏まえた防災・減災対策」

松井 一實(広島市長)

中間総括：室崎 益輝(ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究調査本部長)

[第2日]

特別報告：「我が国の災害対策について(初動対応を中心に)」

小松 雅人(内閣府政策統括官(防災担当)付企画官(災害緊急事態対処担当))

パネルディスカッション第1部「大規模水害時の避難と情報」

座 長：宇田川 真之(人と防災未来センター研究主幹)

報告者：「関東・東北豪雨対応の検証と今後の対策」

小林 弘(茨城県常総市市民生活部安全安心課長補佐)

「豪雨災害の教訓と三条市の防災対策」

米持 克広(新潟県三条市総務部行政課防災対策室長)

「荒川下流・江東5区連携の広域避難体制」

小川 耕治(東京都江戸川区危機管理室防災危機管理課計画係長)

パネルディスカッション第2部「自治体間の広域防災体制の構築」

座 長：永松 伸吾(関西大学社会安全学部教授)

報告者：「東日本大震災の経験を活かした西原村への支援」

小野 弘行(宮城県東松島市総務部総務課行政専門員)

「熊本地震における支援と南海トラフ地震に備えた広域防災体制」

高見 隆 (関西広域連合広域防災局防災計画参事)

「熊本地震の現場における受援対応」

寺本 和寛 (熊本県益城町税務課住民税係長)

総括討議: 五百旗頭 真 (ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

室崎 益輝 (ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究調査本部長)

永松 伸吾 (関西大学社会安全学部教授)

宇田川 真之 (人と防災未来センター研究主幹)

「こころのケア」シンポジウムを開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「熊本地震を通して考える災害後のこころのケア」についての講演および「災害後の外部支援のあり方を巡って」をテーマとしたパネルディスカッションから成る「こころのケア」シンポジウムを、平成28年11月16日(水)、同センターで開催しました。センター開設以来毎年実施しており、今回で13回目を迎えました。自治体職員や教育・保健・福祉関係業務従事者など約100人が参加し、ご来賓として2人の県議会議員の方にもご出席いただきました。

開会にあたり、亀岡智美副センター長兼研究部長が、シンポジウム開催の趣旨や当センターの活動状況を含め、あいさつを行いました。

その後、福井貴子主任研究員が「DPATの効果的な運用に向けての研究」について報告。都道府県等が行うDPAT(災害派遣精神医療チーム)研修カリキュラムの参考になるよう、DPATにはどのようなコンピテンシー(役割に就いた者がその役割を果たすために持つべき力)が求められるのかを全国の専門家を対象に調査し、その結果を発表しました。

次に、矢田部裕介熊本県精神保健福祉センター次長が「熊本地震を通して考える災害後のこころのケア」について講演。平成28年4月に起こった熊本地震において全国のDPATを受け入れた当事者として、問題点とその改善方法、現在の状況や長期目標について詳しく説明していただきました。

パネルディスカッションでは、中山伸一兵庫県災害医療センター長がDMAT(災害派遣医療チーム)の立場から、熊本地震における対応について報告。また、岸本和美兵庫県健康増進課健康政策班主幹は保健師の立場から、現地で行われた活動と実際の状況について、加藤寛兵庫県こころのケアセンター長はひょうごDPATの立場から、活動内容と問題点を報告しました。

その後、矢田部次長も含め、演者全員で「災害後の外部支援のあり方を巡って」をテーマに討議。外部からの援助にあたっては、共感性と想像力の欠如がさまざまな葛藤を生み出すことや、今後の災害を踏まえた受援体制の構築、派遣者への組織的なサポートの必要性といった声が挙がり、有意義な意見交換となりました。

あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つなぐ。
それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

東日本大震災復興の 総合的検証 —一次なる大災害に備える—

研究員 高森順子



はじめに

東日本大震災が発生してから、「集中復興期間」の5年が経過した。被災地では主にインフラを中心とした復興事業は着実に進んでいる。しかし一方で、東日本大震災は自然環境や地域性が多様な地域で起きた広域災害であることから、各被災地が歩んできた復旧・復興のプロセスもまた多様であり、その進捗状況には格差も生じている。

行政・住民・支援組織といった、あらゆるステークホルダーが関与する「創造的復興」の歩みを着実に進めるためには、これまでの復旧・復興プロセスを検証することは欠かせない。しかし、復興の途上にある東北の被災地においては、復興計画に基づき各事業を推進することに人材を投じる必要があり、自前で過去の検証をする余裕がないのも事実である。また、広域災害であることから、県や市町村といった行政区をまたいで検証を行うことも必要である。

本プロジェクトの概要

「東日本大震災復興の総合的検証一次なる大災害に備える—」は、東日本大震災のこれまでの復興プロセスを総合的に検証し、今後の被災地の復興の課題とその解決方策を明らかにする3年間のプロジェクトである。本プロジェクトでは、東日本大震災被災地の円滑な復興はもとより、将来のあるべき地域や社会像を見据えた「創造的復興」の実現に向けて、客観的考察に基づく知見や提案を行うことを目的としている。プロジェクトは、東日本大震災復興構想会議メンバーである五百旗頭真議長、御厨貴議長代理および飯尾潤同検討部会長、東北で継続的に研究を行う東北大学の今村文彦氏、福島大学の丹波史紀氏、岩手大学の広田純一氏、阪神・淡路大震災の復興検証に携わった室崎益輝当機構副理事長をはじめとした計14人の委員から成るチームによって進められている。

復興庁委託事業「東日本大震災の復興状況に関する調査」

プロジェクト1年目である平成28年度は、復興庁より「東日本大震災の復興状況に関する調査」の受託を受け、被災自

治体へのヒアリングを集中的に行い、現場の声から復旧・復興のプロセスの一端を明らかにした。

市町へのヒアリング調査にあたっては、被害状況から被災地の類型化を行い、カテゴリ-A（全面壊滅→新しいまち創造型）、カテゴリ-B（沿岸部被災→復興型）に当てはまる市町を岩手、宮城、福島3県でそれぞれ1市町、計6市町を選定した。ヒアリングにあたっては6つのテーマ（①リーダーシップ②5年間の復興の取り組みの考え方③被災者支援④公共・インフラの復旧・復興⑤住宅再建・復興まちづくり⑥産業の復興状況、復興支援策の評価※南相馬市のみ⑦放射線被害からの復興課題を追加）ごとに市町担当部局および関係組織、団体から聞き取りを行った。また、6市町ヒアリング調査で課題として浮上した国と市町村のつなぎ手としての役割について検証するため、岩手、宮城、福島3県庁に対しても同様のヒアリング調査を行った。

検証で得られた知見とその取りまとめ

プロジェクト1年目で行った被災6市町、ならびに被災3県へのヒアリング調査では、主に行政側による「集中復興期間」における復興への取り組みの実態をつかむことができた。紙幅の関係で得られた知見の全てを記すことはできないため、代表的な知見を以下に示す。

- 首長のリーダーシップのあり方として、住民意見聴取型とトップダウン型が見られた。どちらもメリット・デメリットがあり、行政担当者、住民、他のステークホルダーとの信頼関係構築にあたり、必要とされるリーダーシップと、それを支える行政職員らとのチームプレーが必要である。
- 震災復興にあたっての住民意見の抽出方法等に関しては、定量的調査（アンケート）だけではなく、定性的調査（パブリックコメント等）や説明会等を積極的に行った市町村は比較的順調に震災復興を推進している。特に釜石市の場合はアンケート調査を行わず、顔の見える関係づくりに努め、地区ごとの特性を生かした復興がなされていた。
- 国・県・市町村の連携体制としては、県を飛び越えて国—

市町村での実務的やり取りがなされていた。一方で、復興庁一市町村のやり取りに関しては、元省庁とやり取りする必要に迫られた市町村が多く、国・県・市町村の關係に構造的な課題があることが示唆された。

なお、この調査結果は、報告書「東日本大震災の復興状況に関する調査」として復興庁に対して平成29年3月末に提出を予定している。

今後の展望と課題

災害を契機として、社会の抱える矛盾やひずみが一挙に顕在化することを考えると、東日本大震災からの復興プロセスを検証することは、人口減少、少子・高齢化という現代社会における持続的な地域づくりのあり方を考察することにもつながる。また、南海トラフ地震等の巨大災害に備えたレジリエンス社会の構築にも寄与するものと考えられる。研究プロジェクトの成果が報告書やシンポジウム等によって、いかにして多くの人々の目に触れるようにするかが、目下の課題である。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展「新宮 晋の宇宙船」

風や水など自然の力で動く作品で世界的に知られる新宮晋(1937-)の`現在、を紹介する展覧会です。本展では、展覧会の空間全体を一つの「宇宙船」と捉え、新作を中心に約18点紹介します。

宇宙船へと姿を変えた当館で、新宮船長が誘う宇宙の旅へあなたも出掛けませんか。



《星の海》2016年(兵庫県立美術館での展示プラン) ©Susumu Shingu

■会期=3月18日(土)~5月7日(日)

■観覧料=一般1,300円、大学生900円、70歳以上650円、高校生以下無料

県美プレミアムI

《特集》「Out of Real —「リアル」からの創造／脱却」

本展では当館のコレクションを「アウト・オブ・リアル」のキーワードで展覧します。現実、社会に生きることの自覚を基に、作品に生命を息づかせる作家たちにとっての「リアル」の意味を問いかけます。



山崎つる子《作品》1963年

■会期=4月1日(土)~6月25日(日)

■観覧料=一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料

◎休館日=月曜

◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の4月はさまざまな国の料理のミックスプレートです!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は3月のパキスタン料理

メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで
(夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

※年中無休(年末年始を除く)

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課
TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします 一人間を救うのは、人間だけ

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震…。私たちはこれまで、多くの災害に見舞われてきました。いつ、どこで起こるか分からない自然災害。日本赤十字社では、発災時にいち早く救護活動をスタートできるよう、災害や事故などを想定した訓練などへの積極的な参加、救護資機材の整備など、災害対応力の強化に取り組んでいます。



日本赤十字の活動は、皆さまからの寄付で支えられています。いただいた資金は、まだまだ続く東日本大震災で被災された方々の支援をはじめ、今後起こり得る災害への備えなど、皆さまのいのちと健康を守る活動に生かしてまいります。

■ご協力方法(郵便局・ゆうちょ銀行の場合)

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

新たな災害救護支援センターを整備中!!



大規模災害に備え、全国各地の被災地への支援や全国からの受援の拠点となる施設を、三木市に整備中です。

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

「平成28年度災害対策専門研修トップフォーラム」を3県で実施しました

このフォーラムは、当センターが実施する災害対策専門研修の一つで、組織トップの危機管理能力の向上を目指すものです。センターが開設された平成14年度以降、毎年開いており、これまで全国28府県で実施しています。

本年度は、栃木県、長野県、富山県で実施し、災害対応において首長が果たすべき役割について、理解を深める研修となりました。プログラムは2部構成で、第1部は河田恵昭センター長をはじめセンターの研究員等が講義。第2部は市町村長等が4～6人ずつの班に分かれ、地震が起こった想定で演習を行いました。そのアウトプットとして、班の代表者が、目標、対応方針、市民等へのメッセージを発信する模擬記者会見を行い、それを受けて記者役のリサーチフェロー等が質問をしました。

●トップフォーラム in 栃木

日時：平成28年7月1日(金) 13:30～17:15
場所：栃木県庁 本館6階 大会議室1
参加者：講義の部 51人、演習の部 20人

●減災トップフォーラム in 長野

日時：平成28年7月22日(金) 13:00～17:00
場所：ホテル国際21「芙蓉の間」
参加者：講義の部 179人、演習の部 62人

●トップフォーラム in 富山

日時：平成29年2月8日(水) 13:00～17:00
場所：富山県民会館 304号室
参加者：講義の部 43人、演習の部 16人

トップフォーラム in 栃木



模擬記者会見の様子

減災トップフォーラム in 長野



講義の様子

トップフォーラム in 富山



演習の様子

企画展「地震サイエンス2017 ～地震の観測・研究 最前線～」開催中

7月2日(日)まで、西館2階防災未来ギャラリー(有料ゾーン)で企画展「地震サイエンス2017～地震の観測・研究 最前線～」を開催しています。

阪神・淡路大震災以降、地震の観測・研究は進歩を続け、防災・減災へ広く応用されつつあります。この企画展では科学分野における関係機関の取り組みを具体的に紹介しています。

日本列島全体をモニタリングし常時データを集積する「観測システム」の紹介では、さまざまな地震観測の方法を実物とともに展示し、得られた観測情報が緊急地震速報等の地震情報の発信や現象の研究にどのように役だっているのか理解いただけます。その他、湖底をボーリングして得た堆積物を基にした過去の地震・津波の痕跡に関する研究成果など、将来の地震の発生確率や規模の算出に生かされている最前線の研究を幅広く紹介します。

初めて見るもの、知ることを通じて地震観測・研究の最前線を知り、防災・減災の必要性を改めて考えるきっかけになる企画展です。



展示の様子



展示の様子

「災害メモリアルアクションKOBÉ2017」報告会を実施しました

当センターでは、阪神・淡路大震災の教訓を次世代に伝えることを主な目的に「災害メモリアルKOBÉ」を平成18年から27年まで実施してきましたが、28年より、この先の10年を見据えて「災害メモリアルアクションKOBÉ」を開始しています。

この取り組みは、学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を「活かす」ことができる人材を育成するとともに、防災の取り組みをいろいろな地域や世代へ広げるための事例をまとめ、今後の被害を減らすのに寄与することを目指しています。

本年度は、「KOBÉのことば」をテーマに、参加希望した学生7グループが阪神・淡路大震災で被災した地域等に入り、インタビューやアンケート、交流事業などを企画し、活動しました。

この成果を今後の防災に「活かす」ための事例として、1月7日(土)午前、当センターで報告会を実施しました。各グループの活動報告に続き、公開サロンでは、活動で印象に残った経験を参加学生同士で共有し、同世代の若者に対して「KOBÉのことば」をどのように伝えられるかについて意見交換しました。



活動報告風景



防災ゲーム

【参加グループ】(司会：松蔭高等学校放送部)

兵庫県立舞子高等学校

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°(明石高専防災団)2年生チーム

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°(明石高専防災団)3年生チーム

関西大学社会安全学部 近藤研究室 ほうさいマイCREDO

神戸学院大学現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

兵庫県立大学 ほっとKOBÉ

立命館大学 減災×学びプロジェクト



公開サロン



公開サロン



会場風景

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月6日まで)は無休
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

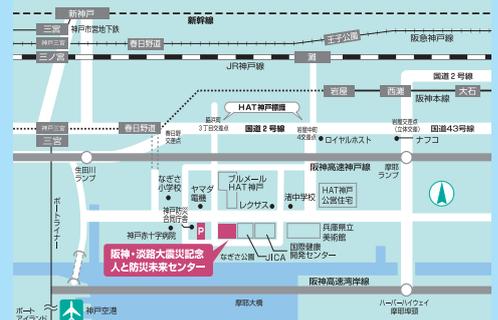
バス

- ・三宮駅前から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



平成28年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会を実施しました

当機構が兵庫県・毎日新聞社と共催し、学校や地域で取り組まれる、防災教育・活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会を、1月8日(日)に兵庫県公館で実施しました。

今回は、全国各地から136校の応募があり、各賞を含めて44校・団体が受賞されました。グランプリに選ばれたのは、高知県立須崎高等学校です。生徒たちは、「地震や津波が来ても逃げない」「諦めている」という高齢者からの聞き取り調査の結果を受け、防災・減災に対する人々の意識改革をテーマに掲げて活動を行っています。犠牲者を出さないための新たな減災対策の提言書を須崎市に提出し、高齢者宅の家具固定のボランティアを行いました。また、住民一人一人に応じたオーダーメイドの避難カルテ作りに着手するなど、地域との連携を絶やさず、地域全体の「逃げる意識」を高めるための継続的な活動が高く評価されました。

式典のオープニングでは、神戸市立西灘小学校の「しあわせを運ぶ合唱団」の児童が素晴らしい歌声を披露。表彰式の後、兵庫県立芦屋高等学校放送部による司会で、グランプリ、ぼうさい大賞、優秀賞を受賞した学校・団体がそれぞれの活動内容を報告しました。熱心に聞き入る参加者も多く、満席の館内は活気にあふれていました。また、兵庫県内の小、中、高校生を対象にしたひょうご安全の日推進会議主催の「防災力強化県民運動ポスターコンクール」の表彰式も併せて実施されました。



受賞校

グランプリ

- 高知県立須崎高等学校(高知県)

ぼうさい大賞

- 阿南市立津乃峰小学校(徳島県)
- 能登町立小木中学校(石川県)
- 静岡大学教育学部 藤井基貴研究室(静岡県)

優秀賞

- 西尾市立白浜小学校(愛知県)
- 印南町立印南中学校3年生(和歌山県)
- 兵庫県立山崎高等学校(兵庫県)
- 関西大学社会安全学部 近藤研究室(大阪府)

奨励賞

- 埼玉県立日高特別支援学校(埼玉県)
- 半田市立亀崎小学校(愛知県)
- 北杜市立白州中学校(山梨県)
- 田辺市立新庄中学校(和歌山県)
- 和歌山県立熊野高等学校kumanoサポーターズリーダー部(和歌山県)
- 徳島県立阿波高等学校家庭クラブ(徳島県)
- 神戸女学院大学人間科学部 地域創りリーダー養成プログラム(兵庫県)

はばタン賞

- 石巻市立鹿妻小学校(宮城県)
- 広島市立三入小学校(広島県)
- 仙台市立郡山中学校(宮城県)
- 徳島県立那賀高等学校家庭クラブ(徳島県)

だいちょうぶ賞

- あま市小学校12校・中学校5校(愛知県)
- 新潟市立南浜中学校(新潟県)
- 徳島市津田中学校防災学習倶楽部(徳島県)
- 千葉県立東金特別支援学校(千葉県)
- 京都市立鳴滝総合支援学校(京都府)
- 国立あかるくらぶ(東京都)

津波ぼうさい賞

- 気仙沼市立気仙沼小学校(宮城県)
- 愛南町立中浦小学校(愛媛県)
- 四万十町立興津中学校(高知県)
- 岩手県立宮古工業高等学校機械科津波模型班(岩手県)
- 宮城県石巻工業高等学校土木システム科地域貢献班(宮城県)
- 兵庫県立芦屋高等学校ボランティア部(兵庫県)
- 愛知工科大学 板宮研究室(愛知県)

教科アイデア賞

- 日野市立日野第六小学校(東京都)
- 廿日市市立四季が丘小学校(広島県)
- 東京都立足立工業高等学校(東京都)
- 浜松職業能力開発短期大学校(静岡県)

フロンティア賞

- 宜野湾市立普天間小学校(沖縄県)
- 八代市立坂本中学校(熊本県)
- 茨城県立結城特別支援学校(茨城県)
- D-PRO135°(明石高専防災団)(兵庫県)
- 山形大学復興支援団体 START TOHOKU(山形県)

継続こそ力賞

- 楠地区子ども会育成者連絡協議会(三重県)
- 大阪市立鶴見橋中学校(大阪府)
- 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県)

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください



Hem21 NEWS
vol.62

平成29年3月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>